奈良文化財研究所70周年・高松塚古墳壁画発見50周年

## 飛鳥資料館 令和４年度 秋期特別展「飛鳥美人　高松塚古墳の魅力」

1972年３月、高松塚古墳壁画が発見されました。発見は社会的熱狂と飛鳥ブームを巻き起こし、壁画は国宝に、出土品は重要文化財として指定されました。女子群像は飛鳥美人として飛鳥を代表する文化財となり、寄附金付記念切手はいまもって歴代最多発行部数を誇っています。その後、紆余曲折を経て壁画・石室は解体され、現在は修理施設で保管・公開されています。

本展覧会では、日本中を魅了した高松塚古墳壁画と出土品の魅力にあらためて迫るとともに、奈良文化財研究所の取り組みを中心に近年の調査研究成果をわかりやすく紹介します。これまでの50年をふりかえり、国宝中の国宝ともいわれる高松塚古墳壁画と出土品を次の50年へとつなげる機会となれば幸いです。　（飛鳥資料館　石橋 茂登）

会　　期：令和４年10月21日（金）～12月18日（日）
開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜日　※11月３日（木・祝）は無料入館日
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/　お問合せ：☎0744-54-3561

奈良文化財研究所70周年・平城宮跡史跡指定100周年

## 平城宮跡資料館 令和４年度 秋期特別展「地下の正倉院展－平城木簡年代記〔クロニクル〕－」

1961年に平城宮跡の調査で第１号の木簡が出土して以降、出土木簡の蓄積は続き、現在では30万点を保管するまでになりました。特に平城宮・京跡出土木簡の実物を一般の方にみていただく機会として、2007年より「地下の正倉院展」を開催し、秋の風物詩として定着しています。

本年は平城宮跡が史跡に指定されて100周年、そして奈良文化財研究所創立70周年にあたります。本展では、60年以上に渡る平城宮・京跡での木簡出土の足跡をふりかえりつつ、各年代を代表する木簡たちをご覧いただき、奈文研の木簡研究の来し方についてもご紹介します。
（企画調整部　岩戸 晶子）

会　　期：令和４年10月15日（土）～11月13日（日）
＊木簡の保全のため会期中に展示替えをおこないます。
前期：10月15日～10月30日、後期：11月１日～11月13日
開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）　入館無料／休館日：月曜日
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/　お問合せ：☎0742-30-6753（連携推進課）

奈良文化財研究所70周年・平城宮跡史跡指定100周年

## 記念特別展「のこった奇跡　のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」

100年前、史跡に指定された平城宮跡は、その後大きくその姿を変えて現在に至ります。本展では戦後から現代までの平城宮跡にスポットを当てます。あまり紹介されたことのない第１次調査から最新の調査成果までをトピック的にご覧いただくとともに、その調査・研究を支えてきた文化財の専門家集団、奈良文化財研究所の活動もご紹介します。

奈文研を中心として始まった68年前の発掘調査を契機に、それまで未知だった1300年前の平城宮の姿が徐々にあきらかとなり、その調査成果をもとに史跡の指定範囲の拡大、遺跡の整備も進みました。近年では、国営歴史公園として様々な活用もはかられています。本展を通して、平城宮跡のために多くの人々が汗を流してきた軌跡もあわせて想いを馳せ、保護・整備されて私たちの目の前に広がる平城宮跡の奇跡をも味わってください。　（企画調整部　岩戸 晶子）

会　　期：令和４年10月29日（土）～12月11日（日）
場　　所：平城宮いざない館（平城宮跡歴史公園　朱雀門ひろば）
開館時間：10：00～18：00（入館は17：30まで）　入館無料／休館日：会期中は11月14日のみ
お問合せ：開館情報に関しては平城宮跡管理センター　☎0742-36-8780
内容に関しては奈文研 連携推進課　☎0742-30-6753

**編集**　「奈文研ニュース」編集委員会　　**発行**　奈良文化財研究所　2022年９月発行
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp　E メール：koho_nabunken@nich.go.jp